

おじゃましま〜す!

ふるさと納税の返礼品を手掛けてくださっている町内の事業所を取材しました。

第7回 陶翔窯

住所：須恵町大字植木115-1
TEL：936-3777

Instagram ▶



7回目は、須恵町の山中にある窯元で、姉妹で協力しながら個性豊かな陶器の制作、販売や陶芸教室などを開き、ふるさと納税返礼品も手掛けている「陶翔窯」に、おじゃましま〜す!

陶翔窯について、姉の光安逸子先生、妹の光安玲子先生にお話を伺いました。中学校の教師だった父が、趣味(独学)で始め、昭和63年に、現在の植木で窯開きを始めてから、継続的に販売をするようになり、現在に至っています。

父から特に陶芸について教えて貰ったことはありませんが、幼いころから陶芸を身近に感じ、興味を持っていたので、二人とも九州産業大学造形短期大学部で、陶芸を学びました。

陶翔窯で使う土は、信楽地域の土で、耐火性が高く可逆性が

大きい粘土質のもので、教室等で使う土は、使いやすいようにブレンドしています。

作品の特徴は、ろくろ目が味わい深く、手に取った瞬間に持ちやすさが解る優しい作りになっています。

毎月3回、工房にて実施しているワークショップに加え、ミニデイサービスやまなびつく教室での出張ワークショップは参加者から大変人気です。インスタグラムで開催日時や募集に関する情報を発信していますので、ぜひご覧ください。

議会だよりについては、最近の議会だより、なんかとつつきやすくなったんじゃないとの感想をいただきました。

「父から受け継いだ窯を姉妹で守り、オリジナリティあふれる作品を、一つひとつ手作りで、普段使いから贈答用まで幅広い用途で使っていたりするような作品作りを心掛けています。

今後とも、姉妹で「地味〜に」活動していきますのでよろしくお願ひします」との事でした。



ろくろ目が味わい深いカップ



大人気のワークショップ。要チェックですよ!



個性豊かなワークショップの作品



妹の玲子先生

姉の逸子先生

編集後記

とあるSNSの発言に「税金なんて何に使っているか分からない。ムダだ!」とか。いやいや税金は生活のあらゆるところに使われていますよ。水、医療、教育、福祉、道路、「ゴミ」下水の処理、防災：ほぼ生活の全部と言っていい。とは言え、ムダがないとも言えない。そこを正すのが議会の仕事でもある。

ちなみに所得税103万の壁を178万に上げると、須恵町で不足する税収は5億円になるそう。すでにギリギリの予算組みなのに。ムダという前の「分からない」が問題かも。知らないと見えて来ない。そういう方は、お近くの議員に聞いてください。

田ノ上 真

発行責任者

議長：松山 力弥

広報特別委員会

委員長：稲永 辰己

副委員長：田ノ上 真

委員：川口 満浩

委員：川原 幸治

委員：平山 諭